

馬驍水墨画会報

発行所 馬驍水墨画会本部
〒117-0000 東京都豊島区東池袋五丁目三十九番一六号ランドメゾン東池袋1011
TEL. 03(3398)7080

中国上海美術館にて

第三回「日中水墨画交流展」

日本馬驍水墨画会秀作と中国水墨画家名作展

(十月二十一日～二十六日)

第一回の東京、第二回のアメリカのロサンゼルスに続いて、東洋の水墨画を伝承する馬驍水墨画会員展は東西文化と国際美術交流に貢献することが出来ました。

第三回の日中水墨画交流展は水墨画発祥の地である、中国「上海美術館」で開催されるため、会員一同一年間をかけて、馬驍先生、王荻地先生のご熱心な指導頂き、昨年よりレベルの高い作品作りに、

一層の努力をいたしました。

この度の日中水墨画交流展は、日本馬驍水墨画会交流展実行委員会、日本馬驍水墨画会全国本部及び、上海呉昌碩芸術研究会の主催により、多くのの方々のお力添えを頂き、十月二十二日人民政府軍楽隊の盛大なオープニングに、会員八十名は感動致しました。テープカットが行われ、上海美術家協会、美術家の方々が出席されました。

程十髮先生

上海二画院院長

高齡の程十髮先生(八二才)は作品の一つ一つを、丁寧にご覧になり、馬驍先生の解説されるのを、一々うなづかれ、「仕事をもち勤務している方や、年輩の方、家庭の主婦が描いた様には見えない程ですね。……と、有名な中国画家である先生のお言葉に感激しました。また程十髮先



生は「東洋的掛軸形式で統一された会員の二百点の作品は、東洋の伝統的水墨画の基礎技法に、独自の新技法を加えて、日本の山水、花鳥、風俗が個々の創作により表現され、水墨画の芸術作品になっています」と、評価なさいました。

謝稚柳先生

美術史家

(上海博物館顧問)

東洋の伝統を継承し基礎的技法に基づき、それぞれの個性を生かして十六年間かけて日本に水墨画を普及させた、馬驍先生、王荻地先生のご指導の成果が今回の展覧会に良く現れています。とお言葉に、お忙しい両先生から、基礎を学び、また個性を尊重した上で、多くの技法など惜しみ無く、ご指導下さいましたので程十髮先生、謝稚柳先生に専門家と区別がつかないと評価に、馬驍先生、王荻地先生に、深く感謝すると共に、もっともっと多くのことを吸収したいと思いました。

また今回の日中水墨画交流展は、上海人民政府の、夏順奎(カシュンクイ)文化部長及び上海市の方々にも大きな影響を与えました。

展示した馬驍先生の数多くの、著書、ビデオ等、水墨画の出版物に対して中国の方々の反応が非常に大きく、日本での水墨画の普及にびっくりされました。展覧会の準備の為に、上海美術館の館長さん

北京、上海日程

訪中団の八十名は、十月十八日「王式廓展」を參觀後徐悲鴻記念館、炎黄美術館を訪問、十九日は天安門広場、故宫博物院の參觀、天壇公園、北海公園のスケッチし、夜は京劇を鑑賞。二十日は、万里の長城、頤和園のスケッチ、二十一日、上海へ黃浦江下り、雑技を鑑賞、二十二日「日中水墨画交流展」のオープニング、夜は上海新錦大酒店にてオープニングパーティが行われました。

展覧会出品の手続きその他事務的な事等色々お世話下さいました、事務局の方々に、牛草由紀子様、込山洋子様、矢吹トシ子様、山口満恵様、加藤賀奈子様方に感謝しお礼申し上げます。

このように多くのの方々のご協力により、第三回日中水墨画交流展が大成功にて終了することが出来ました。

◆帰国展 朝日新聞に二回掲載されました。
第三回日中水墨画交流展の帰国展が馬驍水墨画展示館で、一月二十九日より二月二十四日まで、各地域毎に展示されました。期間中会員及び大勢の水墨画愛好者が来館し大盛況でした。

北京週報

十一月十四日掲載

(NO. 46)

馬驍水墨画会の第三回日中水墨画会が上海美術館で開催され、上海の関係部門の指導者および美術家、美術愛好者ら大勢の人が同展を觀覽した。展示されたのは日中水墨画の大家特別出品作品二十三点、馬驍水墨画会員秀作二百点。第一回、二回、三回と日中文化交流と東西美術交流に馬驍水墨画会は大きく寄与した。馬驍氏は個性を尊重することを基本理念に、新しい時代に即した水墨画を数多く制作し、複数の単行本を出し、

北京美術大学(中央美術学院)教授中国画学部長姚有多先生が来館されました。

姚有多先生

より高い評価

皆さんの水墨画には基礎があり、伝統的な技法をよく学んでいきます。展示した作品を見ると、教室での指導が良くわかります。馬驍先生と王荻地先生の指導は、レベルの高い指導をされています。とお言葉を頂き、さすが専門家、一目で指導者の力量を見てまいりました。

◆北京・上海の旅のスケッチと写真展 平成八年四月十六日より二十日まで馬驍水墨画展示館にて訪中団員の自由参加により開催されました。



水墨画の技法を広く伝え、美術雑誌に多くの文章を発表している。「馬驍水墨画展」は日本国内を始めアメリカ、アジア、ヨーロッパなどで百回以上開催されている。

全国本部事務局を東京に移し、水墨画教室を開いている。馬驍水墨画会には日本の水墨画界でも実力が認められ高く評価されている。会員四百人は各講座を選択し馬驍、王荻地両氏の指導のもとで、技法も年々向上している。アメリカ、中国と国際的な交流を行っている等、画会の活動が紹介されていきました。(一部抜粋)

鄧林女史 実行委員長に

一九九六年度 東京芸術劇場

第四回「日中水墨画交流展」

馬驍水墨画会秀作と北京著名画家作品展

(十月一日～十月四日)

鄧林女史は、一九四一年、河北省滄県にて鄧小平の長女として生まれ、北京美術大学中央美術学院)の水墨画科を卒業され国立北京画院花鳥創作室長。一九七九年には静岡伊勢丹に於いて、馬驍先生、鄧林女史と三人の画家との「中国墨彩画展」

また今後は馬驍水墨画会の客員教授にお迎えする事になりましたので、益々日中水墨画の交流と、当画会の発展のために、ご指導、ご活躍が期待されます。会期中には鄧林女史の中国伝統技法、大寫意の講座を開催する予定です。

王荻地先生の

「花鳥風月」展

馬驍水墨画展示館(六月二十四日～七月二十日)

一日集中講座開催 六月二十八日(金) 講師 王荻地先生 「花鳥画」午前十時～午後四時



日本参観団

国立中国美術館において、(H、七、十、十一日、十九、二十日)に開催された。

素描芸術の巨匠「王式廓展」が盛大に開催されました。

王式廓 1911~1973 素描艺术展

テレビ局のインタビュアーに団員の方々は、感動の言葉を率直に述べていました。

何かを訴えているような眼差し、絵の中から息づかいが聞こえるような、生命感に溢れ、生きていけるような錯覚さえ感じられました。

一九九三年に日本で一度拝見しましたが、やはり中国美術館で見る事に、一層の意味を深く感じました。

総勢八十名！

キャンパスの前で、この世を去った画家としての生き様に深く感銘を受けました。

水墨画を学ぶ上で基本的なデッサンの重要性を痛切に感じました。

「北京青年報」

掲載記事十月十九日発行

東洋の芸術だからこそ、東洋の人々を感動させる。

日本から「王式廓」画伯の遺作を鑑賞に見えた。

昨日、日本から八十名の美術愛好家グループが、荘厳な面持ちで中国絵画の巨匠、卓越した人民美術教育家である王式廓画伯の「デッサン芸術展」を参観した。

王式廓画伯は新中国美術事業の創始者と言ふべき人で、其の油画とデッサンとは、中国美術史の中に在って極めて重要な役割を果して居る。

一九七三年、河南省の農民の肖像画を製作中その手に絵筆を握ったまま亡くなり、仕事に徹して殉職された。

一九九三年に日本で王式廓展が開かれたが、日本中を沸き立たせたと言う一集中的に時代精神を体現し得て余すところなく、画期的な意義を持った「傑作(血衣)」に対しては、参観団員の誰しもが特に

深刻な印象を抱いた模様。

飯田治子さんは「血衣」の前に歩み寄って、暫し立ち止まって居たが、其の両眼からは涙が流れて来た。

その言の老人と子供の姿に、最も感動させられた。全画面一切色気の無い絵であるのに、生々しい色彩を用いて表現してあるようにさえ感じた。と彼女は其の画面の醸し出す雰囲気

菊島幸子さんは、「画面の一つ一つのディテールにはすっかり感動してしまっ、思わず身震いを感じたほどでした。

此の絵が表現して居る様な時代を、私自身経験こそして居ませんが、作品に表現されて居る、一人一人の表情、彼の人達の苦難に覆い尽くされた姿態、憤怒に満ちた心情など、私達は永久に忘れられないと思います。

遥々日本から来ましたが、こんなに高いレベルの絵画展を拝見出来て、本当に来て良かったと嬉しさ一杯に話した。

野島淺三氏は、唯一幅の「血衣」と題する絵の為に、王式廓画伯がこんなに大量の準備作業を成し遂げたことには全く驚いてしまった。

柏木美保子さんは、「東洋人の芸術だからこそ、中国人の皆さんが一層強く感動なさるのですね」と、たった一言で、王式廓展覧会に対する感想を述べられた。

美術館の方の話によると、参観者の数は大勢だが小、中学生がかなりの割合を占めて居たと言う事だ。

高度な技術水準故に、鑑賞者を使って存分に芸術性を享受せしめるに足るものだが、一層重要な事は、王式廓画伯の労作が、正に波乱万丈であった一時代の活きた記録であると言う点であろう。

「史実」の前に暫く立ち止まって瞑想に耽るのである。顧問 徹氏 翻訳 (北京青年報新聞記者 段鋼)

「中国著名画家、美術家四十名と交歓パーティ」

会場は北京国際苑苑皇冠暇日飯店にて、王式廓夫人の呉成女士もご出席され、中央美術学院院长の靳尚誼先生、副院长の杜健先生、鄧林女士、李苦禪先生のご長男、李燕先生など、とても、お会い出来ない、著名画家の方々のご出席を頂き、会員八十名と、盛大な交歓パーティが、馬驍先生の司会により開催されました。

筆談やジュースチャーター等で、楽しく交歓会が行われました。日本参観団 団長挨拶 参観団員の大多数の者は日本で、王式廓先生の素描作品を拝見し、刊行物や新聞紙面

りましたが、あの偉大な傑作「血衣」を是非一度拝見したいと思い、馬驍水墨画会会員が上海美術館で一日水墨画交流展」を開催する機会に参観団を編成して、王式廓先生のデッサンと、併せて先生の高尚な品徳に触れさせて頂きました。

馬驍先生、王荻地先生は、中国に在って長年王式廓先生の教えを受けられ、力を尽くして中国伝統水墨画の普及と、王式廓先生のデッサンを重視する正確な絵画の思想に就いて、大勢の者が両先生の教えを受けております。

また日中両国の友好と美術の交流の為に、更に日本の水墨画の発展の為に大きな貢献をなさっておられます。此のお

「北古ル週報」にも掲載される王式廓デッサン芸術展が北京で開催 (十一月七日発行)

王式廓画伯の美術教育家として、中国の近代美術発展史における業績などと、日本から「王式廓デッサン芸術展参観団」八十名および中国の美術家、美術愛好者一万人が同展を見学した。

大型デッサン「血衣」など多くのすぐれた作品は、時代の精神を集約的に現し、画期的な意味をもち中国の近代美術発展史における重要な一里塚である。今回展示された作品は百点。

日本で開催された「デッサン芸術巨匠王式廓作品展」では日本の美術界に大きな反響を呼び、近代中国のデッサン絵画作品の最高峰であると評している。



沈思する漁民 (1958年ドイツにて)

中国著名画家 官其格画伯 来日記念展 六月十日より二十二日まで馬驍水墨画展展示館にて開催致します。

官其格先生は、中国モダニズム出身でロサンゼルス在住の著名画家。アメリカ、中国、日本など各地で個展を開催され、芸術活動にご活躍されていらっしゃいます。

昨年(一九九五年)静岡伊勢丹の個展では、敦煌の菩薩、飛天、雑技図など、大変好評でした。

「馬驍水墨画 百十選展」

新宿伊勢丹の「馬驍水墨画展」も第十回目を迎えました。その記念と、新宿伊勢丹の「創立百十周年」の記念にちなみ、「百十選展」が開催されます。

その記念と、新宿伊勢丹の「創立百十周年」の記念にちなみ、「百十選展」が開催されます。その為に百十点の作品の制作に、お忙しい日々をお過ごしです。

平成七年年度

第三回日中水墨画交流展

授賞式と忘年会

池袋(龍鳳)

(十一月三十日)



馬駿先生より、会員の皆さんが中国の伝統と、日本の良いものを採り入れ、レベルの高い作品が出来ました。新しい感覚の日本の水墨画は上海水墨画家と上海市民、二千人の参観者があり大変好評であった。とのご挨拶があり、

・日本美術教育センターの山本千晶氏より、会員の作品は馬駿先生、王荻地先生のご指導により質の高い作品であった。

・顧問の堤徹氏より、北京、上海と八十名の会員と共に行動し、とても楽しく過ごした。会員の作品は専門家のように素晴らしいと、ご批評下さいました。

・顧問の蔡慶播氏は、良き師を選び、最高の指導を受け、良い師弟の関係にある。この画会の発展を願っている。と温かいお言葉を頂きました。訪中団団長より、デッサンの巨匠「王式廓展」と上海日中交流展の報告がありました。



「授賞式」
喜びで一杯の表情で、賞状を戴きました。一中国大使館文化部賞、田口婦美子「国立上海中国画院賞、高野喜與子」「馬駿芸術大賞、兼松昌子」「国際中国美術家協会金賞、野島浅三」「馬駿水墨画

第四回日中水墨画交流展

東京芸術劇場にて

平成八年度本部公開催催

(三月三十日(土))



馬駿水墨画会館に於いて、午前十一時より、午後五時まで、顧問の堤徹氏、蔡慶播氏と馬駿先生、王荻地先生、事務局のスタッフ、各支部長、画会通信添削指導講師の二十八名が出席し、議題①平成七年度本部活動報告と平成八年度本部活動企画、②七年度支部活動報告③平成八年度第四回日中水墨画交流展(東京芸術劇場/九月三十日~十月四日)の運営などの議題により進められました。本部からの報告によると、馬駿先生の新春展に

・授賞出来たことは、伝統的な描法及び基本を学ぶことが出来たからだと思います。これからも多くの事を学んで行きたいと思えます。

(児島 太)

「授賞者の喜びの声」
今まで学んだ物を幾度も見直しますと、なんと多くの事を教えて頂いたのかと、感謝の気持ちで一杯です。描く楽しさばかりか、苦しく悲しい時に心なやませ、穏やかな一時が与えられる水墨画と出会い、また喜びをかみしめつつ、思いもかけぬ受賞に、心引き締まる思いです。(佐藤千恵子)

「初級師範認定試験」
△口合格者 竹村トシ、鈴木静江、広住美智子(敬称略)
師範コース、三年終了した者の資格認定の追加試験が行われた。三名の方が合格されました。

野外スケッチ

研修講座
講師 馬駿先生
研修団長 山崎重之

五月八日吹割の滝、九日湯滝、竜頭の滝周辺でスケッチを行い、夜は、七時より馬駿先生の講義、滝と渓流の描法(スケッチから構図の取り方、具体的な描法まで)を指導されました。批評と講義に続き、水墨画に描き上げる筆の動きに注目、九時までの予定が十時過ぎまで、制作過程を説明しながら、轟音と水煙を上げて流れる「竜頭の滝」が描き終わったとき、歓声が上がりました。頭の中は、滝と渓流で一杯になりました。毎

年このような研修会を計画して欲しいとの希望がありました。研修団長の山崎重之氏の綿密なる計画で、色々な風景をスケッチし、有意義な研修旅行に参加することが出来ました事を感謝致します。

東京多摩支部

研究会、七年度は四月、五月一日、二十七日、六月、七月、八月、九月、十二月と行いました。

千葉支部

スケッチ会(平成七年四月三日)原田、加藤、松木、牧口、平山、池田、山崎、七名参加、じゅんさい池には、未だ鴨、白鷺の姿が見られ、将来の素晴らしい作品が出来るであろうと、一同喜びました。

埼玉支部

七月一月十三日、寒牡丹スケッチ。三月九日、写真、スケッチより水墨画作品作り講座。五月九日、藤のスケッチ、九月二十二日~二十四日安曇野スケッチ旅行。

各支部積極的な活動

東京第四支部(平成七年十二月十五日~二十日)
第一回支部展を品川区大崎O(オー)美術館にて参観者四百二十名、駅続きのビル内で盛況でした。今年の秋には奥多摩渓谷のスケッチ旅行を計画中。

東京第一支部

一月十八日、新年会及び八年度総会、会計報告、活動計画案。

静岡支部

自主研修会、月一回、隔月一回、課題研修、スケッチ、美術展見学会等。平成八年度二月二十七日、支部総会にて、支部活動計画。支部展決定、役割分担、自主研修会の計画。四月十七日、馬駿先生の水墨画講座、元会員など五十名が受講。十八日は焼津、大崩海岸スケッチ、強風の中で、東京の会員も参加、スケッチを水墨画に創作する馬駿先生の筆の動きに、感激した一日。

東京第三支部

十一月三十日、授賞式。忘年会のお手伝い、帰国展のお手伝いを豊島区の皆さんで協力して下さいました。

大阪支部

大阪支部は今後、会員間の連絡を密にし、発展する様、努力したいと考えています。

(支部長 濱田そよ子)

馬駿先生、王荻地先生の作品を見て、此の先生方に指導を受けているから、皆さん上達するんですね。他の水墨画展より個性があつて、毎年楽しみにしていると批評。

(支部長 田口婦美子)

